

# 大津 博歴 だより

企画展

天台宗開宗1200年記念

2004  
No.56

## 回峰行と聖地葛川

— 比叡山 明王院の名宝 —

10月6日(水)～11月14日(日)



「太鼓廻し」—大太鼓を廻す地元、民芸保存会の青年—

毎年7月18日夜、明王院で行われる。夏安居の一環で、相応和尚が三ノ滝で不動明王を感得した故事にちなむ行事。太鼓が廻ると、水が滝壺に落ちる轟音のような音が堂内に響き、やがて行者が「大聖不動明王」と称え、合掌して太鼓の上から飛び降りる。相応和尚が感極まって滝壺に飛び込み、不動明王を抱いたかのように。



大津市歴史博物館

## 企画展

# 回峰行と聖地葛川

## 比叡山 明王院の名宝

大津市北部、比良山系の西に位置する葛川は、比叡山の回峰行の聖地としてその歴史を重ねてきました。平安時代の相応和尚（八三一～九一八）にはじまるとされる回峰行の伝統は、千日回峰行や天台宗の行者によつて毎夏行われる葛川参籠（夏安居）に伝えられており、明王院にはその信仰に由来する多くの文化財が残されています。また、葛川の豊かな山林資源をめぐって中世以来、周辺の村々と重ねられてきた相論や葛川の状況を伝える膨大な記録も明王院に残され、日本中世史の貴重な史料群となっています。

本展では、葛川と深く係わる比叡山の回峰行の伝統を紹介するとともに、中世以来の動向を伝える葛川文書を中心に、葛川がたどってきた歴史の一端を紹介します。

## 1 相応・明王院・回峰行

### ① 比良修験の伝統

湖西に聳え立つ比良山系は、古代より山岳信仰の修行地として注目されてきました。ここでは、比良山系の麓に伝わる仏像などを展示します。

### ② 相応伝

円仁の弟子である相応は北嶺回峰行の祖として行門で重要視されてきました。ここでは、相応の肖像画や伝記などを紹介します。

重要文化財 絹本着色相応和尚像 鎌倉時代 延暦寺蔵



重要文化財 門葉記 卷三三 南北朝時代 青蓮院蔵

葛川記 卷三三 南北朝時代 青蓮院蔵  
色少負秋元年己丑生年五好寺高僧歸隱  
谷口向近比良山阿都川源降社其年  
海若自茲值は清時清時清時全乳乳石一心  
祈念明王七日刹那片時不令動度又一老翁忽  
現對如高踏踏内不令動身過七日未日如高  
同化人云秋為解是行人乎化化人返同高誰  
此深省清湖地未管角史未信世行故未位平  
和治若口我日天台山慈覺人神也終亦也不動

### ③ 相応ゆかりの地の文化財

相応は、葛川三の滝での不動明王感得後、桂の木から明王院、比叡山無動寺明王堂、伊崎寺（近江八幡市）に三体の不動明王を刻んだと言われています。これらの相応の足跡を伝える寺院に伝わる仏教美術や史料等を紹介します。

木造毘沙門天立像 平安時代 明王院蔵



木造薬師如来座像 平安時代 比叡山山内寺院蔵



④ 葛川明王院と葛川参籠

明王院で現在も行われている参籠(夏安居)や太鼓廻しに関する史料のほか、参籠札、懸仏、聖教類などを紹介します。

重要文化財 葛川明王院 参籠札

(青蓮院門主慈道・足利義尚・日野富子)

室町時代 明王院蔵



「太鼓廻し」で太鼓から飛びおる行者



⑤ 北嶺回峰行

比叡山内を約三十キロ踏破する回峰行。中でも、「千日回峰行」は、比叡山でも最も過酷な行の一つとして有名です。ここでは、謎の多い回峰行に関する古い史料を展示するとともに、現在行われている行の様子を写真パネル等で紹介します。

2 葛川文書の世界

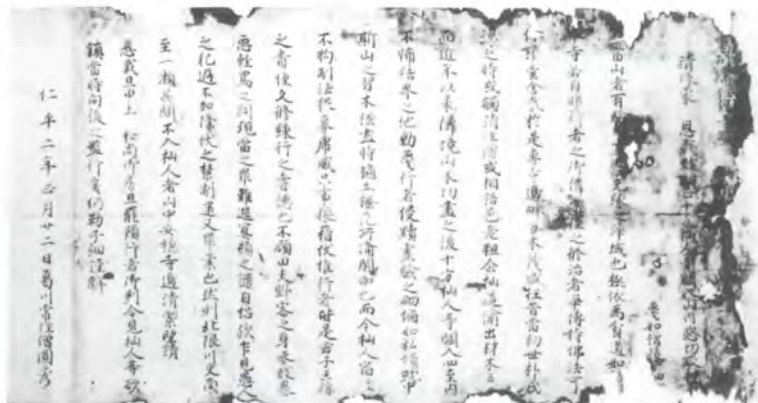
明王院に伝来する相論や葛川の状況を伝える膨大な古文書と絵図を紹介します。

葛川古参詣絵図 室町時代 明王院蔵



重要文化財 明王院文書のうち 葛川常住僧等解

仁平二年(二五二) 明王院蔵



〔関連行事〕

- 一〇月一六日(土) 「千日回峰行について」  
光永覚道氏(北嶺大行満 比叡山南山坊住職)
- 一〇月二三日(土) 「葛川明王院の名宝」  
下坂 守氏(文化庁美術学芸課課長)
- 一〇月三〇日(土) 「明王院への信仰」  
和田光生(当館学芸員)

## 第44回三二企画展

# 渡辺公観と日本自由画壇

■ 11月16日(火)～12月26日(日)

大正八年(一九一九)十一月、文部省によって改組された官展の「帝國美術院展覧会」(帝展)にたいし、その鑑査・審査に疑問を感じていた画家たちによって「日本自由画壇」が結成され、拘束を受けない自由な作品制作と発表を標榜し、翌九年から一七年まで毎年展覧会を開催しました。その中心となったのは南画家の池田桂仙であり、彼を含む京都在住の画家一六名(井口華秋、伊藤小坡、猪飼嘯谷、上田萬秋、上中直斎、小村大雲、水田竹圃、庄田鶴友、加藤英舟、林文塘、西井敬岳、渡辺公観、高山春凌、玉舎春輝、広田百豊)が創立同人に名を連ねました。そのひとり渡辺公観は、大津出身の日本画家であり、師の森川曾文が二六歳の時に没した後、他の画塾に属することもなく、独自の画境を築いて活動していた画家でした。今回は、彼が展開した、大正日本画に文人画を折衷させた山水風景や花鳥の世界を、初公開作品を中心に、二〇点前後の作品を紹介します。



渡辺公観 山村春雨図 個人蔵

## 第45回三二企画展

# 大津の仏教文化5 寺誌・縁起

■ 平成17年1月6日(木)～2月20日(日)

大津の仏教文化を紹介するシリーズの第五弾。今回は、仏教文化を生み出した寺院の歴史や縁起にスポットを当て、各寺院独自の歴史を史料により紹介します。

日本の諸宗の源である比叡山延暦寺をはじめとして、天台寺門宗の総本山園城寺(三井寺)や真言宗の石山寺、天台真盛宗総本山の西教寺などの大寺院には、各寺院の草創建立に関する縁起や、堂舎や仏像に関する史料が多く伝わり、いにしえの様子を伝えていきます。特に現在は失われています。また、現在に失われている記述は、かつての安置状況を復元できる貴重な情報として注目されます。今回は、今まであまり紹介されてこなかった史料を中心に、縁起、祖師伝記なども含めて展示する予定です。

### 真盛上人往生伝記

千時明應四年己未正月十五日寅一點  
始四十八日別時念佛道場伊賀河内郡  
長田庄西蓮寺也毎日三時肩乾法聽開責  
賦結縁道侶如聖列如雲集或改宗管法  
柳弟門派之法頗入會中或出家捨財別支  
妻親子之具榮成阿化報然先少不定聞法  
嘗習生无病死法遂定法也光陰運轉鳥危  
報妙同二月廿九日自辰刻就巖發日中  
法談為不定處日常等群集之間不獲已  
自中半列至前列諸黑谷上人傳記太原開  
卷自日來報教殊貴道俗男七雲隨喜心法  
談終想向之時各報可殺十念出氣煩之  
間可復格十念自禪子上投之下皮別輝史  
室其以復就義林增氣而初夜談談十念  
止通夜道格老弱男失半意神袖退出僧  
侶凡廿九衆各所九回賜人問方行渡  
交相語云此病氣若有住生為如何歎念自

真盛上人往生伝記 西教寺蔵

古代における地方の役所は、七〇一年に出された大宝律令によって設置が決められました。これにより、地方に行政のための施設が国家の主導で、国の単位に「国府」、郡の単位には「郡家」と呼ばれるものが造られました。

これらの役所の跡をどのようにして見つけるのか。ひとつは、現在に残る地名や地形から考える方法があります。「国府」では、そのまま国府が地名となっていたり、また府中なども古代の国府の地ではないかと考えられています。郡家では、そのまま「郡」の字が入っている地名や「コオリ」という読みが入っているものなどがそうではないかと考えられています。また、文献に出てくる国府・郡家の地名を現在の地点に比定する方法もあります。

では、考古学により発掘調査される遺跡の中で、どのようにして国府や郡家と判断するのか、それにはいくつかの指標となるものがあります。地面に残る痕跡である遺構からは、掘立柱建物が確認できること、特に大きな柱をもち、柱を立てるための掘り方が正方形や長方形を呈するものが見つかること、そして、その建物の配置が「コ」の字型や、また軒先をそろえるなど、規則的に並ぶことが挙げられます。

しかし、このような状況はある程度広い面積を発掘しなければなかなかわかりません。そこで、狭い範囲の発掘では出土する遺物の中に、指標とする特殊な遺物が含まれているかどうかをさがします。ひとつは、文字に関係するもの（硯、墨書土器、木簡など）があげられます。これは、当時の人々はある程度の上層階級でないと文字を使わないだろうとする考え方からきています。他に、石帯とよばれる石のベルト留めや、緑釉陶器などの釉薬をかけた土器類、木杵などがあります。



野畑遺跡出土墨書土器  
「国分僧寺」  
(滋賀県教育委員会蔵)

ところで、国府・郡家とも、各国・郡に一つずつということになります。しかし、最近の多くの発掘成果から、特に郡家について上記のような様子の遺跡が同じ時期に一つ郡のなかにいくつも見出せるような状況が出てきています。これをどの

ように理解するのか。現在の県庁、市役所、町役場などと同じく、本庁としての建物と出張所のよなものがあった、と考えるのも一つです。また、役所関係の遺跡と、単なる地方の豪族の家という違いであるのかもしれませんが。荘園の領主などの邸宅ではないかという考えもあります。

地名や文献にみえる役所の推定地での発掘調査で、先にあげたような遺構・遺物が検出されると、よりその可能性が高くなります。

現在の滋賀県で、古代の役所跡（関係遺跡）と考えられているのは、

- 国府……国史跡近江国庁・惣山遺跡・青江遺跡・菅池遺跡・野畑遺跡・堂ノ上遺跡など（大津市）
  - 栗太郡……岡遺跡・手原遺跡（栗東市）
  - 高島郡……日置前遺跡・弘川遺跡（今津町）・鴨遺跡（高島町）・美園遺跡（新旭町）
  - 坂田郡……大東遺跡・宮司遺跡（長浜市）
  - 神埼郡……大郡遺跡（五個荘町）
- などが挙げられます。高島郡などでは公的な施設と考えられている遺跡が複数あります。今後、調査・研究が進めば、古代の地方支配について、より詳しいことが分かってくるでしょう。

（西中久典）

# 収蔵品紹介

## 47

### 四ノ宮祭礼例年九月十日巳の歳ばん付

明治二年 本館蔵

湖国三大祭の一つとして、毎年多くの人々が訪れる大津祭。先頭（くじ取らず）の西行桜狸山を除いて、曳山の巡行順は毎年くじで決められています。今回紹介する資料は、明治二年（一八六九）に制作された、その年の曳山の巡行順を示した刷物です。表面には十三基の曳山がその年の巡行順に並び、曳山の簡単な絵と由来が記されています。木版のため、表現はやや稚拙に感じられますが、曳山の屋根の形やからくり人形などで各曳山の区別がつけられています。また、本資料は毎年替わる順番に対応できるよう、おそらく版木が曳山ごとに分かれており、その年の巡行順に並べ替えられるようになっていたと考えられます。それを示すのが、左端の黒くなった部分です。当時、大津祭の曳山は、堅田町の神楽山（三輪山）を加えて十四基ありました。この頃には、神楽山は巡行しておらず、休山状態になっていたため、左端に黒い部分ができたのでしょう。

また、裏面には天孫神社（四宮神社）の神事行列の姿も描かれています。曳山の巡行については、代々書き継がれてきた「四宮祭礼曳山永代伝記」（市指定文化財）などで、その変化をおおよそ知ることが出来ますが、天孫神社の本来の祭りともいえるべき神事行列は、資料があまり残されておらず、行列の姿が描かれたこの資料は、非常に貴重なものといえます。なお、行列の中には各町から出されたねりものも町名とともに紹介されています。

なお本資料は、十一月十四日（日）まで開催中のミニ企画展「大津祭の装飾品」で展示します。

（木津 勝）



曳山ばん付



神事行列

大津歴博だより No.56  
平成16年9月15日

大津市歴史博物館

〒520-0037 大津市御陵町2-2 ☎(077) 521-2100  
ホームページ <http://www.rekihaku.otsu.shiga.jp>

100  
大津市歴史博物館